



二ツ井中学校
教諭
佐藤 有

これが私の 指導法

～知的財産の継承～

学級経営を中心に紹介します。私の指導法というよりは、先輩方や同僚、コーチ、保護者など多くの方々から学んできたことです。
みなさんは、4月初めの学級開きでど

んなことを生徒に伝えますか？私は1年間の指導方針、生徒に心がけてほしいことを学級通信に書き、それをもとに生徒に伝えていきます。（部活動も同様です。また、学習指導で言えば、授業開きと同じ目的です。）その具体的内容を以下でお伝えしますが、学び合いを活発にしたり、生徒指導の諸問題を予防したりするためにも重要だと感じています。
①学校に通う目的は？
学習や教養は大切ですが、あいさつ、時間を守る、役割を果たす、協力する、進んで取り組むなど「社会

性」を身に付け、自立の準備をすることも大切です。そういう意味でも通信簿の行動の記録はとても重要だと伝えていきます。さらに職場は、主体性や協調性の高い人材を求めています。
②人間関係で大切なことは？
お互い様Ⅱ五分と五分の人間関係。自分も周りもどっちも大切（社会科で「結果の公正Ⅱみんなに一定の利益」と教えていますが、実際には両者のバランスが難しく、失敗ばかりです）。×なのは自分勝手、陰口、非難、悪者探し（1月末に放送され

我が校の実践

竹生小学校

教諭 飯坂 貴子

『進んで学び合い、 高め合う子どもを目指して』

本校の研究主題は「進んで学び合い、高め合う子どもを目指して」である。今年度は①児童の主体的な学び②学び合いの質の向上③次につなげる振り返りについて研修してきた。この実践について紹介したいと思う。

①児童の主体的な学び

少人数・複式学級の本校では、児童が主体的に学ぶことが必須となっている。本校では学習リーダーの児童が授業を進めていくスタイルを続けている。児童が主体的に

学んでいくためには、1時間の学習の見通しが必要である。そのため、カードを使って黒板に本時のタイムスケジュールや学習過程を示している。また、ノートとリンクする板書を構成することも児童の理解を深め、主体的な学びを支えている。

②学び合いの質の向上

より深い学びになるように教師は発問を工夫している。問い返したり揺さぶったり切り返したりすることで児童に再度、考えさせるようにしている。また、少人数で多様な考えが出ないときには、別解や誤答を用意し児童の学びを深めている。児童同士で分からないところやコツを聞いたり教え合ったりする「アドバイスタイム」も効果を上げている。

③次につなげる振り返り

今年度、振り返りの観点を五つにしぼって提示した。児童が本時に身に付いた力を実感し、次時の



学習の意欲につながるような振り返りを今後も考えていきたい。児童の主体的な学びを航海に例えるならば、教師は児童の自力での航海を手助けする、灯台といえるだろう。本時で付けた力を明確にし児童が授業をつくり上げていけるよう照らし導いていきたい。

編集後記

今年度も「教育のしろ」に各校より玉稿をお寄せいただき、ありがとうございます。
5名の校長先生のお言葉をはじめ、紹介された実践を能代の教育財産として各校及び先生方全員で共有し、今後の実践や取組に生かしていただければ幸いです。
次年度も「チーム能代」でよろしく願います。(M)



たEテレのTVシンポジウムでも、同様の発言が繰り返されました。私もする時はありますが、一時的にしています。別の言い方をすれば、そういった話は過去の相手について話しているわけで、より大切なのは今と将来だと思えます。こういったことを年度当初に伝え、機をとらえて繰り返し指導しています。
終わりに。「体は衰えても、精神面では亡くなる直前が最も優れている」と思っています。私自身の不徳により悪戦苦闘の日々が続いています。この拙文が、みなさんのお役に少しでも立てれば幸いです。